

校舎改築

老朽化した校舎

山口高商の校舎は明治18(1885)年の山口中学校時代の建物を引き続き使用していた。建築後30年以上経過しており、教室は陰鬱で「トンネル教室」という異名があった。衛生上の弊害も認められ、徹底的改造の必要に迫られていた。

大正6(1917)年、校舎改築を計画したが、なかなか予算が承認されず、大正15年3月末までようやく第1期計画(教室の改築、講堂、書庫及び図書閲覧室の新築など)が完工した。同年11月以降、第2期・第3期として、本館と正門の改築が行われ、昭和6(1931)年には教室2棟、寄宿舎、柔道場などが新築。職員・生徒の精神修養のための健進館及び弓道場も建築され、その後、商品陳列室、理化学実験教室、雨天体操場の改築・新営が行われた。



改築後の本館(昭和2年3月新築)



現在、経済学部にある商品資料館は、旧亀山校舎の面影を偲ぶものとして、山口高商時代に改築された本館に似せて作られた。屋根のアーチ、門構えなどが似ている？ 6頁の写真と見比べてみてね！

屈指の体育施設 誕生

学友会は、山口高商30周年記念事業の一つとしてプールの新設を決めた。硬式庭球場を運動場に移し、そこにプールを竣工した。固定飛込台やスプリングボードなどを併設し、水中電気照明の設備も備えた。日本水上競技連盟の指示を受けた工事で、短水路プールとしては完璧に近いものだった。周囲に1,000名収容の観覧席が設けられ、総工費は1万数千円(現在の価値では約4,000万円?)に上ったとされている。



プールの竣工式の様子

運動場は、昭和11年に隣接の県有地を買収し、生徒の勤労作業・山口中学生の作業援助により昭和13年3月に竣工。一段高くした北側に硬式・軟式庭球、籠球、排球のために10コートを並べ、中央には陸上競技のトラック、ラグビー、アメフト、ホッケーの競技場を配した。南側には野球場、アメフト練習場、東側に跳躍場、土俵、ホッケー練習場を設けた。こうして、全国の高商のなかでは屈指と評される体育施設を備えたのである。